

通し番号	中学校区	No.	大項目	小項目	分類	未回答	質問内容	回答
96	城東中学校区	1	再配置の方向性	小中学校の再編			市町村合併の時、合併すれば小学校は現状維持されると聞いていた。説明が違っていたのか。	<p>当時、そういう説明をお聞きになったということは、そのような説明がされたのだと思いますが、いずれにしても合併して10年以上経っております。その頃と社会情勢が本当に大きく変わってきているというのは、皆様もお解りいただけると思います。先程言った少子高齢化というのも全国的なことで掛川市に限ったことではないと思います。そういった中で、例えばですが教育委員会の学童施設も所管しておりますけれども、そういったものもどんどんニーズが高くなり、今足りなくて学校の教室を学童に変えているところも学校によってはございます。そのように施設に関連していることもだいたい状況が変わってきているということです。それから、小中学校ですけれども、先程言ったように全体として子供の数は減っていく中で、求められていく教育の中身が大きく変わってきています。今まで英語と言うと中学校以上でした。けれども、これからは小学校からでも英語を学び、先進的なところ（都会）は、本当に幼稚園の頃から英語に親しむようなところも公立でも私立でも出始めております。そういう世の中が教育環境も変えていく、変わっていく中でそういったことに対応をしていかなきゃいけないということを教育委員会としては考えなければいけません。</p> <p>今までは知識偏重型、例えば学力一つとっても学校で学んで、それでできたかどうかテストで評価してというような時代だったと思います。これからの世の中はそうではなくて、未来創造型と言って新しいものを生み出していく、そういった知恵をつけていく、もっと言うと平成の途中から生きる力を付けなきゃいけないということを国が割り出して、今では更にもっと強く生きる力を付けなきゃいけないということで、それを学校教育の中では色々な授業の中で思考力だとか判断力だとか、もっと先を見通するような洞察力等、そういったような力を授業の中でも付けていかなきゃいけないと思います。その時に、先程来申し上げているように、数人の固定化・人間関係が固定化されている環境の中で切磋琢磨できるという、そういった意味でお話しましたような力がなかなか身に付いていかない、より強く生きるっていうのはある程度チャレンジしていかなきゃいけない、そういったことも求められてくると思います。そういった意味で国全体で変えていこうという、そういう流れの中でありますので合併当初の時と状況が全く異なっているということでご理解いただきたいと思います。</p>
97	城東中学校区	2	再配置の方向性	財源不足	試算		維持管理費が年平均100億円、上下水道は別会計30億は除くとして、一般会計分年平均70億円であり（投資可能予算が年平均40億円）、毎年30億円足りないから延床面積の25%削減というのが具体的根拠、理由を聞かせてください。	<p>公共施設再配置方針という冊子がございます。今日はお手元の方に配布しておりませんが、50年間で不足する金額は1604億円、更新費用は維持運営費、維持管理費にかかるのが7063億円ということで、それを分子分母で割りますと、およそ23%の削減が必要であるというような計算をしております。必要な方がいらっしゃいましたら、事務局にお申し付けいただきお持ちいただければと思います。</p>
98	城東中学校区	3	再配置の方向性	各地域の平等性	偏在		平成合併では予算規模が大きくなるメリットが謳われていたと思うが合併後、南部はそのように充実化されたのか。城東地区は空白区になっていないか心配。	<p>推測もありますけれども、予算規模が大きくなると謳われたというのは、例えばですが、旧町で実現できないような大規模な事業が合併特例債等の財源によって事業の実現できるという意味かなと理解しました。どのようなものが南部地域にこれまで公共投資があったかと言いますと、例えばですが大東図書館です。それから、市道海洋公園線や近い所と言いますと市道入山瀬線はおよそ40億円の事業費がかかっております。あとは、南部体育館もそれにあたります。今は防潮堤等の海岸線でそういうような整備をしていること、それから、さらに申し上げれば、現在、こども園の整備を進めておりますけれどもそれにも合併特例債を充当しているところであります。</p> <p>城東地区が空白になっていないか心配ということでございますので、これについては、市とそれから地元の皆様、まちづくり協議会等の皆様と含めて今回の再編の中で良い案ができればと考えております。</p>

99	城東中学校区	4	再配置の方向性	立地		再配置される場所の候補とか考えられているのか。	地域の皆様とご協議・ご相談させていただきながら、再配置の候補地等を検討していきたいと考えております。
100	城東中学校区	5	再配置の方向性	目標設定	根拠	30億円の算出根拠がよくわかりませんが、学校施設を統廃合して、新しい施設に造り替える費用（古い施設の解体費用も含めて）と今ある施設の長寿命化を図る場合で、かかる費用はどうかというような試算は行われているのでしょうか。長寿命化を基本として取り組んでいる自治体の視察は行われたのでしょうか。再配置計画を来年秋にはまとめるというのはあまりにも拙速のように思います。	個々の施設ごとに修繕費や長寿命化の経費を計算しているということではございませんが、これについて、長寿命化を進めるというのは非常に大切なことでもありますし、安全性の確保という観点からも重要であると思います。従いまして、これは当然長寿命化をきちんと進めていきますのでその点については、またお気づきの点があればご意見をいただければと思います。
101	城東中学校区	6	再配置の方向性	その他		老朽化の指標が木造30年、鉄筋60年とあるが、メンテナンスして長寿命化、改修などによって長く使っていくということは考えないのでしょうか。危険な原発でさえ年数を延ばしている。	今、お答えさせていただいたとおり、長寿命化の方は適切に進めてまいりたいと思います。
102	城東中学校区	7	検討の進め方	市民意見	具体的	公共施設再配置がなぜ必要かは資料2により理解できましたが、具体的に城東中学校区はどのように再配置したいのか個々の施設ごとの説明を求めます。	先程申し上げましたように、小中学校の拠点化というものが、今回の再配置方針の基本になる考え方であります。ご質問の個々の施設につきましては、事業化の段階で地元の皆様、関係の皆様と丁寧な説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
103	城東中学校区	8	検討の進め方	その他		資料2の下段、再配置（案）の修正について行革審と議論ができるか。行革審と議会の立場は？参考資料が行革審ありきのような気がする。	掛川市の行財政改革審議会は、市長の諮問機関でございまして、専門的な観点からご議論やご協議をいただいているところであります。今後、答申をいただきご意見を踏まえプランについては、修正を検討してまいりたいと考えております。
104	城東中学校区	9	再配置の方向性	防災	防災拠点	避難所（小中学校）の老朽化が進み、災害時の防災拠点は確保できるのか。	大変重要な視点かと思えます。再配置の検討時期にはご質問にありました避難所等については、個々の再編を検討する際にどうしていくかということをしっかり検討していきたいと思っております。
105	城東中学校区	10	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係	再配置事例、絵に描いた餅にならないように。城東中学校区で可能なのか？小中学校統合は地区にとっては大きいマイナス。	これは先程もご説明したようなところで、地域としては子供の声が聞こえなくなるというのは、寂しい思いをするということとはよく解りますし、また、通うところも統合していけば、少し遠くなるということも考えられる等の課題も色々ございます。 当然、そのことについても現在検討しておりますし、絵に描いた餅にならないように、じっくり進めていきたいと思っておりますが、ただ、先程から言っているような人の問題というのはなるべく早く対応していかなくちゃいけないということがございますので、この城東学園については一貫教育についても研究を進めておりますので、早めに絵に描いた餅にならないように進めてまいりたいと思っております。

106	城東中学校区	11	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係	<p>城東中学校区をみると、中地区、佐東地区ともに小学校と幼稚園が唯一の公共施設となっています。適正配置を言うのであれば、それぞれの施設を複合化して地域の拠点とすべきではないでしょうか。すべてを土方地域に統廃合してしまったり、両地域の活性化はできないではないでしょうか。再配置事例に示されているような複合化の検討をすべきではないでしょうか。</p>	<p>このご質問は各小学校ごとに複合したらどうかということだと思いますが、学校が地域の太陽というのはよく言われることですが、そこに学校があって、そこに地域の方が入った複合化の施設ができれば一番良いということだと思います。これは教育的な問題として、子供の数については少子高齢化ということで、大体のことはお解りだと思うのですが、それと合わせて色んな業種でも人不足のことが言われていると思います。我々、教育委員会として困っているのは、教員がかなり不足をしまっているということです。今現在、全ての小・中学校、掛川市出身、要するに地元の教員ですが、地元の教員が今、4割ちょっとで6割は全て他市から遠いところでは静岡や浜松からもきています。磐田、袋井も近隣は全て来ていただいて定数と我々は言うのですが、学級担任が居ないのでは困りますので、そういった他市から教員をいただいて定数を満たしているという状況でございます。そういった状況がある中で、今後、教員になりたいという希望が増えるように色々な働きかけはしているのですが、急には増えてはいかない、働き方改革の関係でも、本当に学校の苦しい状況がテレビや新聞等で報道されていて、そういう話を聞いてしますと学生も教員になるのはやっぱりやめとこうかなというような傾向がある大学も多くなってきているということを知っております。そのため今後、若い先生が増えていく見込みがとれない状況でもあります。そういった中で、今の学校数の場合、かなり教員を配置することについても、もう既に他市でも起きておりますが、教員配置の欠員が起こっており教頭先生や教務主任等、そういった方々に担任に入ってもらおうというような状況です。大きいところは、ある程度のりしる付けられてやってこられたところがあったのですが、だんだんできなくなってきていて小規模校等は、例えば若い先生が産休・育休というお休みをとってしまうと、そこに新たな教員を非常勤として付けなければならないのですが、そういった非常勤も居ない状況です。先程言った、遠い所から来てもらっているわけですが、中にはそれじゃ遠いから配置できず、職員が居ない状態であるところもあります。教育委員会としてどうしているかと言うと、完全にリタイアした方々が、一番上の方で70歳過ぎの方も実際にいるということで、そういった方々にもちょっとお願いをしながら、定数を満たしていく、あとは臨時で入ってもらって何とか学校を回してもらっているという状況にあります。従いまして、それぞれの地区で小学校があって、子供の声が聞こえる状況、また複合化して高齢者とも共用して施設が使えるような状況になるというのは理想な状況だと思います。そういった状況がこの城東学園だけじゃなく全ての学園にあります。もう少し申し上げますと小学校が市内で22校ございます。中学校が9校、合計すると31校の小中学校が掛川市内全体であるわけですが、小学校だけで見ますと22校のうちの半分の11校がいわゆる小規模校、もう少し解りやすく言いますと1学年に1学級しかないということです。1学年1学級しかない学校が22校中11校ございます。今0歳児の方がこれから小学校入った、令和7年度の時にはこの11校が13校になります。現在推測で13校ですが更に増えていきます。そういった状況になってくると、先程言った教員の配置の問題もございます。それと国や県が言っているもう一つは、これからもっと世の中で強く生きていかなきゃいけないということで、そういった力を身に付けて欲しいということで県教委や各市町で新しい教育システム、掛川の場合は小中一貫教育をやらうとしているわけですが、それにプラスして他の環境づくりということを考えているわけですが、そのためには、1学年に少なくとも2学級から3学級、理想としては3学級以上だと思います。そういった学校をやっぱり造っていくのが望ましい。やはり、ある程度の子供数が居ないと、その中で子供達も色々な価値感っていうんでしょうか、多様な見方っていうんでしょうか、そういったことが学べない、今の単級学級のデメリットになるところが、やっぱり固定化されてしまうということです。人間関係も固定化されてしまって、なかなか新たな想像力って言うんでしょうかね、新しいことを生み出すというところに関しては非常に力が弱いと国の方から指摘されているわけですが、そういったところへ今後やっぱり改善するためにはある程度の子供の数がいる環境を整えてあげることが、我々大人の責任なのか教育委員会としても最大限努力して、そういう学校施設を造っていかなくちゃいけないのかと思っております。それにプラスして複合化というのは子供だけの環境だけじゃなくて、地域の方々も入って大人も入って子供達を教育していく、子供を見ていくというような環境も必要だということで、先進事例の亀山市と松阪市のことが出ていましたけれども、そういった複合化施設ということが出ていていると思います。今後、掛川市として、教育委員会としては市長部局の方とも色々協議しながら、その地域に合った学校づくりということを進めていくということ、複合化の検討については、ある程度全体の再編をしつつ、統廃合も当然その中に入ってきております。そういったことも進めていかなくちゃいけないということで、これは今後、こういった地域説明が控えておりますけど、全部の中学校区でお話をしていきたいというところでございます。</p>
107	城東中学校区	12	再配置の方向性	小中学校の再編		<p>学園化のあり方検討委員会は、早々と「一体型」または「隣接型」の統廃合を決めたようですが、地域の声がほとんど反映されることもなく「統廃合ありき」の検討結果のように思います。委員長の鈴木氏は行革審の委員でもあったと聞いていますが、地域の学校のあるべき姿として、どのような答申をまとめられたのでしょうか。</p>	<p>答申については、実際にホームページ等でも公開をしております、まとめられたものを教育委員会が委員長から受けとりまして、これをまた市長の方にも報告をさせていただいているわけですが、今ここの中に言った隣接の一体型または隣接型というのは、教育委員会としてはまだそこまで複合施設をつくるということを前提として検討したわけではありません。元々は、子供の教育環境をとって望ましい施設は何かということで、小中一貫教育を今後進めるにあたって、どういった施設がいいのかということで一部地域の方にも入っていただいておりますし、幼稚園・小学校・中学校の先生または、地区の区長様や関係課、学園化に関係している方々入っていただいて検討委員会の中で検討してきました。</p> <p>当然、多くの地域の方々に意見を聞いたということではございませんので、ご質問が出ているようなところの部分はご意見として聞いていかなくちゃいけないと思いますが、答申としては基本的に平成29年度に掲げました「小中一貫教育基本法推進基本方針」それにのっとって、先程言ったように市内全体を小中一貫教育ができるような環境にしていくということです。中身は、城東学園でも研究されておりますので、そういったものを土台に進めていきます。ハード的な面については城東学園では一体型または隣接ということで出ておりますけれども、今後、複合化ということになってくれば、その部分がどうなっているか、またこれは今後の検討課題ということになるかと思っておりますので、今現在は複合化のことを置きながら検討を進めているというところでございます。</p>

108	城東中学校区	13	再配置の方向性	小中学校の再編		<p>現在、幼稚園、保育園の統廃合を進めていることは聞いておりますが、城東中学校、小学校および幼稚園の学園化構想について現在の進捗状況を知りたい。</p>	<p>学園化構想は従来から保幼小中連携した教育をこれまでやってきていて、掛川市ではかなり歴史があり30年以上の歴史がございます。そこで一歩進めていくのが一貫教育でございます。これから進めるのは小中一貫教育がメインでございます。保幼のところについては、連携教育をこれまでと同じように進めていくことです。この学園化構想ですが、市内全ての中学校区で既に学園化は進めておりますけれども、さらに小中一貫教育を行うための学園づくりということで、それは今現在、市教委の方でも検討しております。検討の主なところが市内全体ですので、再編も含めた形で検討を進めているということで、教育委員会では新たな学園づくり研究会というのを立ち上げまして、これは教育委員会だけでは話が進んでいきませんので、市長部局の関係する部署の方々にも入ってもらいますし、また市だけの考えでも困ることになると思いますので、第三者的に大学関係者や有識者の方々にも入っていただいて検討を進めているところでございます。ですから今年度中には、一つの案をできる限りまとめて先程のプレゼンでも説明がありましたが、10月に案を出していくということなので、それに間に合うように進めているところでございます。</p> <p>保育園の関係は、部長の方からご説明いたします。それでは、私の方から幼稚園・保育園の状況についてご説明をさせていただきます。城東地区につきましては、三つ目の幼稚園、それから一つの保育園を新しい認定こども園にしていくということで、今年の夏に場所が決まって、お知らせしたとおり吉岡彌生記念館の西側の田んぼのところに造っていく予定でございます。今、こども園を運営する大東福祉会さんの方で、建物の設計をする業務をどこにお願いするかということで、その選定を行っております。近々決定されるということを知っておりますが、その建物等の設計、それから具体的にその土地の取得のお願いさせていただいたり、造成工事、それから建築工事という形で入っていくということになります。開園が令和5年4月ということですので、事業進捗に合わせて、年4回認定こども園便りというのを各組に回覧させていただいていますが、その中でもご報告をさせていただきたいと思っておりますし、これから事業が具体化してきますので、それに併せて必要に応じて、地区説明会等もやっていくような形になろうかと思っております。また、今月17日の日曜日にそれこそ、この会場できとう認定こども園のワークショップをやるということで、幼稚園・保育園の保護者の皆様、それから地区の子育て世代の皆様にご参加いただいて、ワークショップを開催しますので、申し込みされてない方もどんな話がされているのかなということで、ご見学に来ていただければと思います。また、進捗についてはその都度お知らせしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
109	城東中学校区	14	説明会	説明内容	事例	<p>掛川市と三重県亀山市&amp;松阪市との違いは何か。なぜ先進的な考え方や動きができたのかは調査していますか。掛川市は事例のまねをする考えですか。</p>	<p>先進的な事業につきましては、施設のあり方を行政、地域の皆様でよく話し合い、協議をしていただきながら、このような事例になったと聞いております。掛川市でも、地域の皆様とよく話し合い、意見交換を行いながら進めてまいりたいと考えております。先進的な事例、複合化や機能集約というものが、これまでの施設では成し得なかった機能充実を達成するというものでありますので、良いところは取り入れていきたいと考えております。</p>
110	城東中学校区	15	再配置の方向性	その他		<p>I期とII期はどのような理由で決められているのか教えてください。</p>	<p>基本的には、施設の対応年数の到来時期にI・II期の検討時期を合わせております。</p>
111	城東中学校区	16	再配置の方向性	各地域の平等性		<p>三重県（川崎小学校、鎌田中学校）の施設をモデルケースとして説明されたが、当地域にフィットした計画案なのか。公共施設の統廃合は時代の流れでいたしかたないが、切り捨てられる地域（利便性）があってはならない。税金使用の公平性、均衡性が重要だと思う。</p>	<p>今回、再編の根本的な考え方は中学校区、それから学校を地域の核とするという考え方を持っていますので、当地域にフィットしていきたいということも地域の皆様とよく協議をしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>

112	城東中学校区	17	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み	統合、複合化の検討と言うことは、最終的に掛川市は小中一貫校にすべてなるのか。	<p>まず小中一貫教育については、皆様もご存知かと思いますが、今日お手元の資料に城東中学校で行われます研究発表会のご案内資料が入っていると思います。この掛川市が進めている学園化構想は城東学園がスタートになっております。ここで研究されたものが市内の9中学校全ての学園に反映されておりますのでここが発祥の地です。</p> <p>教育委員会としては、これまでも色々な取り組みをされてきたものが各小中学校へ波及しているということで、その第二段階として新たな学園づくりということで未来を見ていった時、将来、国やこのまちを担っていく、支えていくリーダーシップの取れるような人材、子供の育成をしていかなきゃいけないということで、中身を考えたのが小中一貫教育ということです。今現在、先程言ったように城東学園、それからもう1校、北部の方で原野谷学園も研究指定しております。そちらの方で3年目の研究を終えようとしているところなのですが、その発表を受けて、この掛川市として望ましい小中一貫教育、もっと言うと小中一貫校をどう造っていくかということ、その検討を並行して進めているところです。従いまして、最終的に掛川市は小中一貫校に全てなるのかということですが、中身のソフト面は研究しておりますので、もうすでにどんどん始めていきます。ただ、施設の方はそこにすぐに追いついてはいけないものですから、徐々に地域のお声を聞きながら一貫教育がよりしやすい環境、学校施設づくりを進めていきたいということです。</p>
113	城東中学校区	18	説明会	運営		この説明会の前日と同じ会場での議会報告会でした。2日連続で平日夜の参加はきついです。なので、昨日の議会報告会は別の日に行くことにしました。もう少し日程を考えてください。たしか城東と西中（or北中）が連続になっています。	ご苦勞をおかけして大変申し訳ありません。今後はこういうことのないように日程を考えてまいりますので、ご理解をいただきたいと思います。
114	城東中学校区	19	再配置の方向性	跡地・空き施設		1期廃止となっている幼稚園の建物、土地の利用についてはどのように考えているか。公園等に整備する考えはないか。	現時点では、先程ご説明申し上げましたとおり、譲渡・売却を図るということを基本と考えておりますが、これについても地域の皆様とご相談をさせていただきながら個別に慎重な検討をしていきたいと考えております。
115	城東中学校区	20	再配置の方向性	財源不足	試算	市の財政健全化がテーマになると、必ず施設統廃合が手段として選ばれる。そこで今回の課題としてあげられたもののうち①人口減少、少子高齢化②財政状況の変化に対し、どのような対策を打ち、どのような効果があり、にも関わらず、先の説明の年間30億円不足を補うことができないのか説明が必要ではないか。特に菊川市が住みやすいということから、掛川から菊川へ移る若者が多いと聞きます。そのことを比較して調べたのか。調べたなら説明してほしい。	<p>人口減少、少子化、少子高齢化の対策につきましては、掛川市では現在、例えば保育園を増やして働きやすい環境を整えたりですとか、あるいは企業誘致をしたりですとか、移住定住の促進ですとか、その他にもたくさん子供を産み育てるような環境の整備を総合的に進めているところであります。それによって、2040年に人口12万人に回復しようというようなことを考えて政策を進めております。それから、財政状況の説明ということでございますが、これまでも色々な経費削減に取り組んでまいりました。</p> <p>平成21年に第1期の行財政改革審議会を設置いたしまして、1期2年で現段階で第5期の行財政改革審議会を継続して設置をし職員の削減ですとか、経常経費の削減に努め、それを投資的な成長分野の方に回そうというようなことを進めてきたところであります。ご質問の趣旨にありますように一番大変になるのは生産年齢人口が減少し、支える世代が少なくなっていくことですので、そこのところを市もそうですけれども、地域の皆様のご協力をいただきながら、対応していきたいという趣旨でございますので、ご理解をいただきたいと存じます。</p>

116	城東中学校区	21	再配置の方向性	交通手段		なぜ松阪市の事例を取り上げたかわからない。人口を調べたら5万人ほどで掛川よりかなり少ないし、小学校の写真を見た感じでは、当地区（城東）より街みたいで（建物が多い）あまり参考にならないのでは？「縮充」という言葉に違和感。施設がいくら立派になりサービスがよくなっても、遠いと「足」はどうするのか。「足は地域で検討」ではあんまりでは？	松阪市は人口5万人ということですが、現在松阪市は15万から16万人の人口を有する都市であると思いますので、よろしく願いいたします。それから、施設を集約化・複合化していきますと遠くなる施設も出てきようかと思います。そうした場合には、例えばスクールバス、朝送って行ったスクールバスを昼間、一般の市民の方ですと高齢者の方が使えるような方法はないかというようなことも移動手段を検討していきたいと考えています。
117	城東中学校区	22	説明会	説明内容		資料の再配置案等の見方がわかりにくい。もう少し詳しく説明してもらわないと、城東中学校区の例だけあげられても困る。黒枠（竹の丸等）の施設はどういう意味か。	耐用年数が50年以上ある施設又は歴史的建造物につきましては、建替等にそぐわない施設ということで、黒い枠にさせていただいて表示をさせていただいております。
118	城東中学校区	23	検討の進め方	市民意見	合意形成	H28年から今までの間に、どういう経緯でこういう配置になったのか。策定案を作るプロセスがよくわからない。H28年かせてその次の年くらいに地域の意見を先に聞くべきでは？毎回のことながら順番が逆。掛川市はいつもそうで本当に残念。先にいろんな声を存分に聞いて、それから大枠を提案してほしい。こういうことをやっているから市民がいつまでたっても役所任せになる。報徳の精神と違う。	実際の再配置も勿論そういうようなことで、丁寧な説明を心がけていきたいと思っておりますが、各施設の事業化の段階では、個別案件ごとに地域や利用者の皆様等の関係者のご意見をいただきながら、協議を進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
119	城東中学校区	24	再配置の方向性	その他		この先、掛川市をどのようにしたいのか。その姿が見えない。	現在の掛川市は総合計画の中で将来像を「希望が見えるまち、住みたくなるまち掛川」としてまちづくりを進めております。このようなまちを創っていくためには将来にわたって持続することが可能なまち、持続可能なまちを作ることが必要であると考えております。持続可能な行財政運営を行いながら、子供達の未来のために必要な投資を行うようにしていきたいと考えております。

120	城東中学校区	25	再配置の方向性	小中学校の再編		<p>小中カリキュラム連携や教員の人材交流、相互研鑽といったソフト面の連携、接続円滑化については問題ないと考えるが、施設一体化として小中学生同居の環境となると、小6時点で涵養すべきリーダーシップや感得すべき自己万能感といったものを獲得する機会を奪うことになりかねない。発達段階における重要な機会を奪うことは子供達の将来を奪うことになりかねず、取り返しがつかなくなる恐れが大きい。施設統廃合ありきで予算面の合理化の理論で強行すべきように感じられますが、施設一体型の小中一貫教育のこうした負の側面に関しては熟慮検討されているのでしょうか。</p>	<p>当然検討しております。義務教育学校というのはご存知でしょうか？国が進めているものなのですが、今までの六三制を大きく変え小学校の6年、中学校3年を六三制と言います。それを、4年、3年、2年で小中9年間の教育を考えて、カリキュラムを作って小中学校を編成します。そういった義務教育学校が全国ででき始めていますが、我々が目指しているのはその義務教育学校ではなくて、やはり小中一貫同じ9年間を考えたカリキュラムを作るわけですが、そこには一体型にするだけじゃなくて、隣接的にも教育ができるように配慮されております。それと義務教育学校ですと1校に1人校長とそれから教頭を置かなきゃいけない。それともう一つは、小学校・中学校の両方の免許を持ったものでないと義務教育学校は基本的に造れないです。ですが、小中一貫校ですと小学校と中学校それぞれに校長と教頭を置くことができます。一体型になったとしても置くことが可能です。また、免許に関して先程は教員が不足して大変だということもあるのですが、小学校の免許だけでもできる範囲の教育ができますし、もちろん中学校の免許を持っているものだけでもその範囲の中で指導ができます。今後、国も言い始めていますが、小学校の高学年5、6年生については、中学校のように教科担任制に徐々にしていこうという考えがあるみたいですが、これは既に掛川市では10年以上前から一部の小学校でも実施しております。今後、小中一貫教育を進める中で教科担任制教育ができるようにしていきたいと考えておりますので、その中でご質問いただいている負の面ですけれども、解消していきたいというのはその区切り方をどうするかということだと思うのですが、今研究しているところ少し参考にしたいと思うのは5年と4年で区切るということなんです。つまり、子供達が早熟で昔と違ってどんどん成長が早くなって発達段階も今までは小学校6年がピークで一番成長していると考えて教育してきたわけですが、今はそのリーダーシップも4年生ぐらいのところでも、かなり10年前やもっと前と比べてみるともう4年生あたりでできるような段階まできています。とすると義務教育、四三二という区切りで四年生で1回切って、そういうリーダー性を取得する、そういった教育をやることができます。掛川も小中一貫教育を考えているわけですが、そういったどこで切るかというのを、先程検討していると申し上げましたが、掛川市も五四制がいいのか、四三二制がいいのか、色んなところを併せて検討しております。つまり、これまでの六三制の枠にとらわれない、私ども新たな掛川型の小中一貫教育カリキュラムを作って施設も合わせて造っていくよう検討しているところでございます。</p>
121	城東中学校区	26	検討の進め方	計画策定時期		<p>公共施設の再配置案の修正を市民との情報共有、議論、ニーズ把握となっておりますが、説明会は今回限りなのでしょうか。来年10月策定となっておりますが、こんな短時間に十分市民の声を聞くことができるのでしょうか。策定を急ぐ理由を聞かせてください。</p>	<p>説明会の開催につきましては、現時点では未定でございますが、この地区説明会の他に、次第にもご記入させていただいておりますが、ホームページへのご記入でご意見をいただく他、FAXやメール等でご意見・ご連絡をいただきたいと考えております。</p> <p>また、策定を急ぐ理由ということですが、一応50年間の計画でございますが、50年間で平均毎年30億円、財源が不足するというはわかっておりますので、できるだけ早く策定をしたいと考えております。</p>
122	城東中学校区	27	再配置の方向性	少子高齢・人口減少		<p>○ 統合、複合、廃止が進めば地域はますます廃れ、結果さらに人口減少が進み、高齢者の町とならないか。市の方からすれば仕方ないかもしれないが、統廃合の代わりとしてのものを考えていただき、さらなる人口減少止めを考えてほしい。</p>	<p>少子高齢化の進展や社会経済状況の変化により、既存の公共施設では対応し切れていない市民ニーズが今後増加することも予想されます。今回の再配置については、それらの新しい市民ニーズに対応した新たな公共施設サービスを構築する機会であると考えています。現時点では、地域学習センター等のまちづくり協議会の活動拠点は、再編後の小・中学校への複合化を考えています。場合によっては、1つの学校に複数のセンターを統合する可能性もあります。</p> <p>現在の位置よりも地域から遠くなるかもしれませんが、複数の地区で共同利用することで、1地区ごとでは持てなかった大きい部屋を整備できたりする等、今よりも更に使いやすい施設にできると考えています。個々の統合・複合化については、地区ごとの事情を考慮しつつ各地域の皆様と協議しながら慎重に検討していきたいと思っています。</p>

123	城東中学校区	28	再配置の方向性	個別施設	レクリエーション施設	○	<p>学校関係はともかく、福祉関係やレクリエーション施設等できてからあまり年月が経っていないのに、すでに廃止や譲渡を検討しているのに驚きです。はじめの考えが甘かったのか。たまりーな12年、ならこの湯16年、シートピア19年等は地域の人の大切な憩いの場の一つです。市の役割として残すことも考えてほしい。温水プール等は子供等にとって大きな楽しみの一つになっているようです。</p>	<p>公共施設を再編する理由は、お金の問題と施設によるサービスの問題の二つがあります。施設の老朽化が進展している中で、今ある全ての施設を維持・再整備していくと年間30億円くらいが足りなくなります。施設の再編を行わないとすると、子育てや介護・医療等他の分野への投資を調整しなくてはいけなくなります。</p> <p>また、施設の再編は古くなり利用実態に合わなくなった施設を、現在の市民ニーズにあった施設に再編することができる機会でもあります。この機会をチャンスと捉え、全体としての施設サービスの質を高めていきたいと考えています。施設の譲渡等については、市の関与を残しつつ公民連携を拡大し、民間ノウハウを最大限活かしてサービスの質を上げていただける環境を創り出したいとも考えています。</p>
124	城東中学校区	29	再配置の方向性	防災		○	<p>災害の時、小中学校が避難場所の拠点となるが、災害時のこと等どう考えているのか。</p>	<p>個々の再編を検討する際には、防災拠点をどのようにしていくかも同時に検討していきます。</p>
125	城東中学校区	30	再配置の方向性	縮充		○	<p>我が地域の施設の方向が見えない。小、中、幼の施設の複合化に何があるのか、今後可能となるのか見えない。</p>	<p>少子高齢化の進展や社会経済状況の変化により、既存の公共施設では対応し切れていない市民ニーズが今後増加することも予想されます。今回の再配置については、それらの新しい市民ニーズに対応した新たな公共施設サービスを構築する機会であると考えています。現時点では、地域学習センター等のまちづくり協議会の活動拠点は、再編後の小・中学校への複合化を考えています。場合によっては、1つの学校に複数のセンターを統合する可能性もあります。</p>
126	城東中学校区	31	検討の進め方	情報共有		○	<p>掛川市の公共施設の再配置について、市の方向は理解できる。ただし施設ごとの現在の役割と今後の方向、可能性がよく理解、想像ができない。過去の内容の明示と、今後の可能性を具体的にあげてほしい。</p>	<p>現在の位置よりも地域から遠くなるかもしれませんが、複数の地区で共同利用することで、1地区ごとでは持てなかった大きい部屋を整備できたりする等、今よりも更に使いやすい施設にできると考えています。個々の統合・複合化については、地区ごとの事情を考慮しつつ各地域の皆様と協議しながら慎重に検討していきたいと思っています。</p>